

## ○ 大橋美幸（京都府立大）

対象は、一戸建に子供世帯と同居している在宅痴呆性老人16名（男性1名，女性15名，平均年齢78.9±6.3歳，平均居住年数17.7±18.9年）である。

台所・居間・老人室の配置は次の4つに分類した。「基本型」台所と居間，居間と老人室が接しており，台所と老人室が接していない配置。「老人室解離型」台所と居間が接しているが，老人室が台所や居間と離れている配置。「台所解離型」居間と老人室が接しているが，台所が居間や老人室と離れている配置。「逆転型」基本型の居間と寝室が逆転した形で，台所と老人室，老人室と居間が接しており，台所と居間が接していない配置。

各型で，在宅痴呆性老人の生活展開を比較した。

「基本型」（5名）で，老人は居間ですごしていた。介護者が居間におり，一緒にすごすことが多かった。一部に，老人と介護者が，老人室ですごす者があり，老人室の居間化が見られた。「老人室解離型」（3名）で，老人は老人室ですごしていた。介護者が居間にいるため，居間に出かける者が多かったが，居間に行かず，介護者と一緒にすごさない者もいた。「台所解離型」（6名）で，老人は居間ですごす者が多かった。介護者が台所にいるため，台所に出かける者も見られた。介護者は半数が台所，半数が居間にいた。台所や居間に行かず，介護者と一緒にすごさない老人もいた。「逆転型」（2名）で，老人は居間ですごしていた。介護者が居間におり，一緒にすごすことが多かった。老人室は，台所と居間の間にあり，通路になってしまうため，利用されることはなかった。